

花鳥風月・俳句

夕立の雨に一息夏野菜

炎天下負けじと白いクンシラン

高橋学

ケイタイで鶯鳴くを送信す

老いし身の昭和の服に更衣

子燕の六羽育ちて巢に溢れ

青味帯び雨を喜ぶ植田かな

振り返り振り返り去る鮎釣夫

大風も梅雨の出水もなく平和

散歩道明日を約して夕焼す

峡の村大きな虹の橋かかる

三浦 シズ子

コスモスの揺れて幼き想い出を

いつまでも暑き日和の彼岸花

雑草に乗る虫そっと秋の風

小野 弘幸

五月晴れ寝ころぶ芝生柔らかし

鯉のぼり空に向かって健やかに

明星 勲

夕涼み右手に団扇夫に風

田中 良子

目的もないまま開ける冷蔵倉

今城 宏子

鮎釣りの列なす川や解禁日

名水の湧水両の手に掬ふ

鈴木 伊都美

噎せるほど口に入れたる麩粉

神野 幸男

何年ぶり和む鶯谷渡り

遊歩道花菜の波に浮かれをり

電線で含み鳴きする番い鳩

群れくるは雲の一团嵐し呼ぶ

塗堀 良子

雷鳴の後立ち上がるレインボー

手作りの醪でかじる胡瓜漬

小林 泰子

昔から苦髪楽爪本当だ

早巢立ちしたツバメつれ軒に来た

加藤 イサ子

蛸食べて豊作祈る半夏生

頭垂れ立ち竦むなり立葵

徳永 誠一

どの畦もまいておりぬ棚田かな

夏草やつぎ学習いとおしむ

曾我部 福石

春愁や介護の人の多かりし

菜の花や春の小川に絵のひとし

篠原 高代

茹だる夏木蔭の元でガブ飲みす

猛暑日や浜風吹いて涼しくて

石井 トシ子

戻り梅雨眺めておれば孫横に

落合 敦

七夕やまだ指折って句をつくる

桃冷やすしろがねの水あふれ出る

藤田 盛男

空青くかん高く蝉鳴きやまず

夕暮れに一段高し蝉の声

高橋学